



déclic art book, 2020.10.06

(28pages, self-publishing)

one day is gone as July is August

単層の構成、韻と

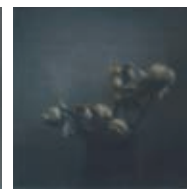
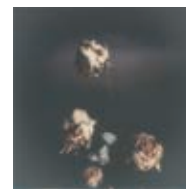
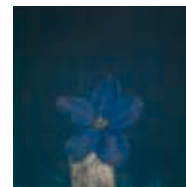
single layer composition



, with rhyme



déclic



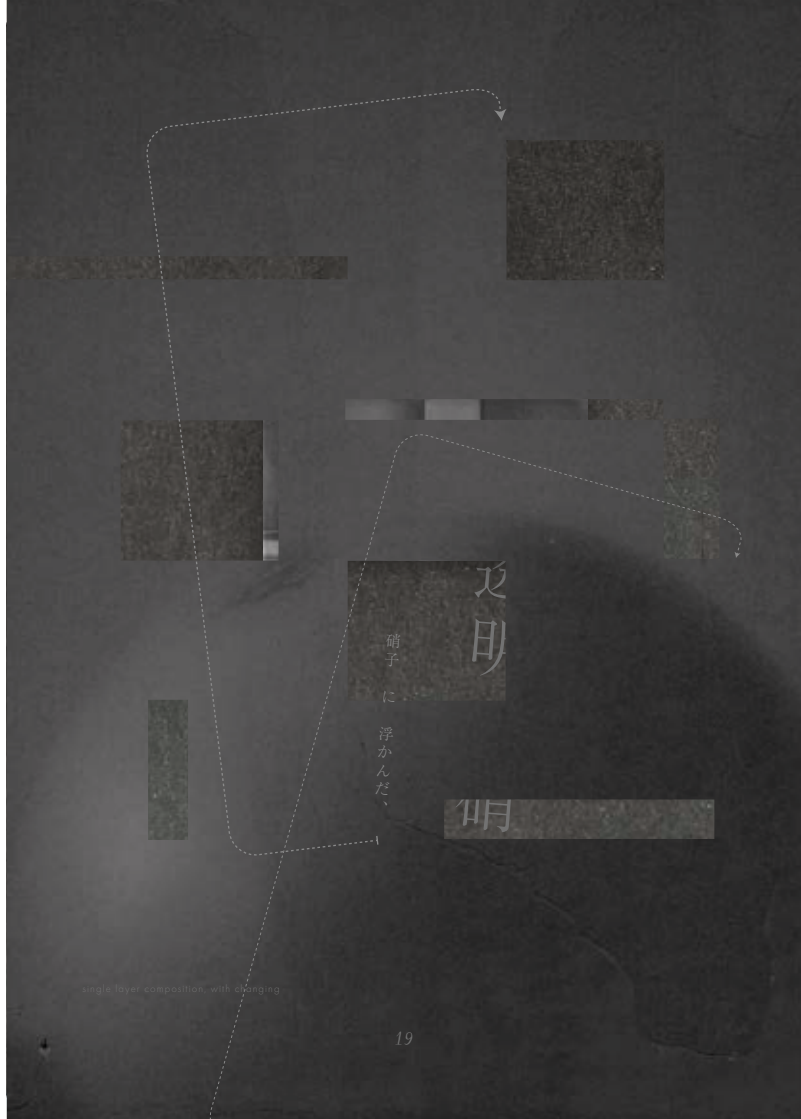
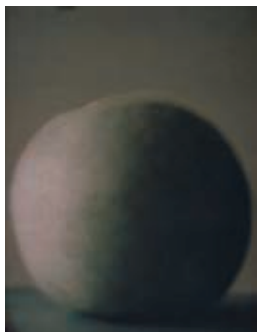
なぜか

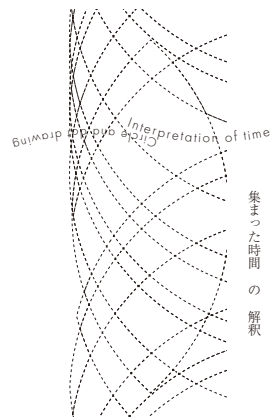
緑と白 の 深く

散りばめた 金色の葉

地中 の 闇火

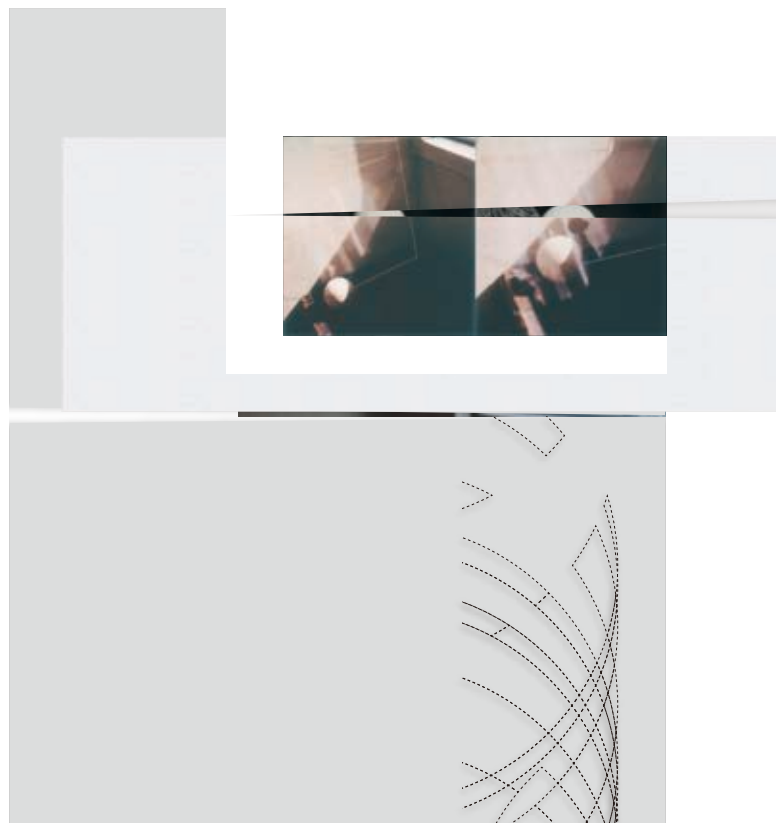
single layer composition, with an old idea





連続する点 それぞれ は
球体 と 局面

そこ
ある / ない 不可視 / 可視
ここ



single layer composition, with the abandonment of a structure



言葉 段差と隙間
 九月 ある日
 ふたたび 消える 形
 の 見えない ねこ
 の 消える 意味
 響く



single layer composition, with the quiet voice



窓
硝子
に
浮かんだ
ただ



構成

三浦 健爾 (Kenji Miura)

グラフィックデザイナー、
インスタレーション、写真など
アートワークの制作・展示を行う...

artwork...design, photo, words, treatments
Kenji Miura (d  clic)

<https://declic.jp/>

2020, 1006, first issue.
declicpr20201001kmno01



Lion Gallery 2020A/W Catalogue, 2020.07.18
(26pages, Lion Gallery)

Lion

GALLERY

LOVE
is
never
ending story
ra · i · on
Tokyo JAPAN

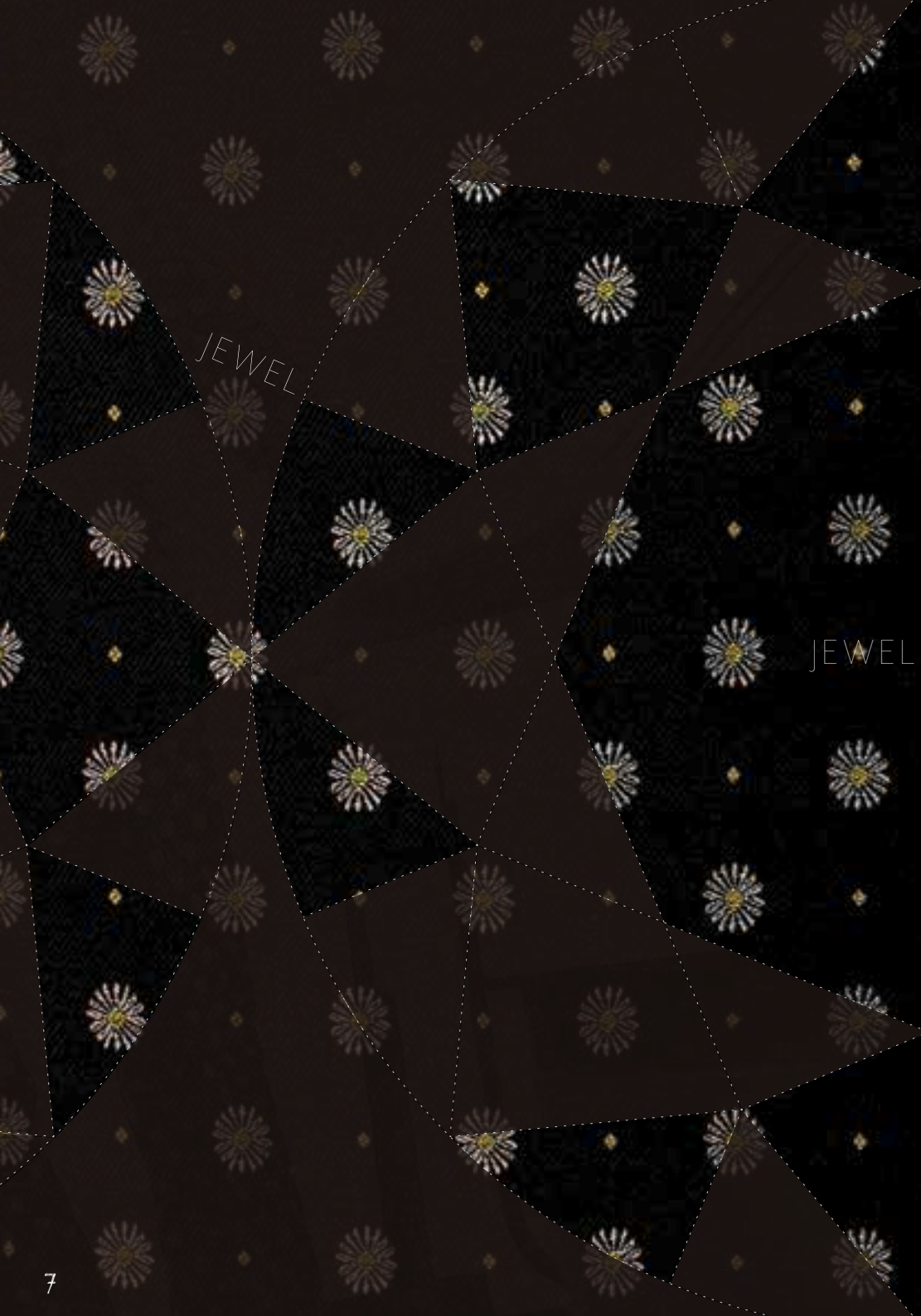
PRIVATE



Lion
GALLERY







POLKA





Lion
GALLERY

Instagram

io_yukomurata



lion.gallery220

Lion 1.

MEGURO TOKYO BOUTIQUE + (OFFICE)

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-13-35 ニューフジビル 2F

2-13-35 New Fuji bldg.2F Kamiosaki Shinagawa-ku
Tokyo JAPAN 141-0021

tel. 03-6456-4587

e-mail. lion.gallery220.meguro@gmail.com

<https://lion-gallery.com/>

Lion 0.

KUMAMOTO ATELIER BOUTIQUE

〒860-0078 熊本市中央区京町 1-2-21

1-2-21 Kyomachi Chuo-ku Kumamoto-city
Kumamoto JAPAN 860-0078



DIRECTION

Yuko MURATA

PHOTOGRAPHER

Kyoko HARADA

GRAPHIC DESIGN

Kenji MIURA

Special Thanks

Stylist:

Yuiko Yoshimura

Hair&Make up:

Masayoshi Nakayama (Allen)

Model:

Nancy (Image)

Director & Designer

Yuko Murata

Designer & Technique

Mariko Nishimiya

Maker & Sales Manager

Atsuko Matsushita



WHAT'S UP ASIA, 2020.01.28

(8 pages, TNC Inc.)

WHAT'S UP ASIA

No. 05
02, 2020

“アジアリサーチセンター*”がアジアの今をお伝えします

*三井住友DSアセットマネジメントの香港子会社の一部門

INDEX



シンガポール編

02 → 03



タイ・バンコク編

04 → 05



インド・ベンガルール編

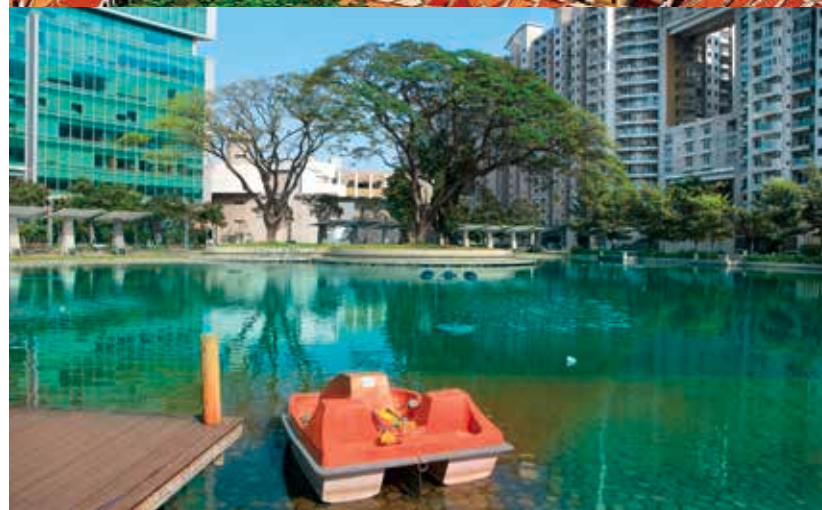
06 → 07



各国不動産メディアウォッチ!

08

投資から購入・賃貸まで
のびゆくアジアの不動産・住宅事情



経済成長とともに不動産開発が進行するアジア諸国。特に参入企業や人口の増加による各種オフィスビル、商業施設、そして住宅等の需要に応える不動産市場が活況を呈している。世界の目が集まるアジアには国内外からの投資も集まり、各国の都心部や開発エリアの不動産価値はますます伸びてゆくだろう。

今号の特集では、ASEAN経済のハブでもあるシンガポール、都市として成熟が進むタイ・バンコク、そして次なる大国インドのハイテク産業を担うベンガルールの3都市から、アジアの不動産市場の状況や現地生活者目線でのリアルな不動産事情をお届けする。

専門家に聞いてみよう

アジア地域の高い経済成長率見通し、進展する都市化、都市における金融集積を背景にアジア各国の不動産市場は活況を呈しています。人々の将来に対する楽観的な見通しも不動産価格を後押しします。一方で、欧米をはじめ世界的な規模で定常化しつつある低金利環境は長期にわたり続きそうです。製造業の設備投資が盛り上がりを欠く中、余ったお金は金融市場や不動産市場に流れ込みます。個人投資家がアジア地域の不動産の値上がりを楽しむためには、不動産投資信託(REIT)への投資が有力な選択肢となります。

(アジアリサーチセンター 坂口)





現地の不動産・住宅トレンドが見えてくる

各国の不動産メディアウォッチ！

世界の超富裕層の注目を集める
シンガポール不動産

SINGAPORE

英系不動産サービス大手ナイトフランク社の調査によると、3,000万米ドル以上の純資産を所有する世界の超富裕層198,342人のうち17%が、今後シンガポールで新しく住宅物件の購入を希望していることが明らかになった。当地の不動産マーケットは、2018年に中心部の高級物件の価格が平均で9.1%上昇したが、超高級住宅物件の人気に陰りは見られない。

ダイソン社の創業者ジェームズ・ダイソン氏は2019年7月、当地の最高層ビル「グオコ・タワー」のスーパーペントハウスを購入。3フロア計1,961平方メートルで5,420万米ドルだった。その2週間後、さらに3,011万米ドルの物件を購入し、大きな話題となった。その他、Facebookの共同設立者エドゥアルド・サベリン氏、アリババの創業者ジャック・マー氏など、名だたる著名人が次々と当地の超高級住宅物件を買い求めている。

出所：Singapore Business Review



※イメージです



駅近のコンドミニアム特集

THAILAND

都市鉄道建設が進む中で、タイの各不動産メディアでは都心への通勤に便利な駅近のコンドミニアム特集がよく見られる。日中の強い日差し、雨季のスコール、歩道の歩きにくさや治安を考えると、バンコクに住む人にとって徒歩圏内の範囲は500メートル程度ともいわれ、特集によっては駅に隣接したものから200メートル以内の物件だけを集めたものもあるほど。成人してからも実家で同居する人が多いタイの若者だが、郊外の実家から都心への車通勤は数時間を要し、駅近くに自分のコンドミニアムを購入したいという人が多いようだ。都心から少し離れた郊外であれば中所得者層や若者でも手が届く価格帯の物件もあり、駅近くでありながら、100～300万バーツ程度の物件が数多く紹介されている。コンドミニアムには、フィットネスジム、プール、コワーキングスペースなど、若い人の趣向に合わせた設備が整っている。



投資すべき注目エリア特集

INDIA

やはりハイテク産業の発展とともに流入企業数が増加し、それに伴う人口増加で続々と商業施設や飲食店、住宅の需要が生まれている。そのため、現地不動産メディアThe Property Timesでは「投資すべきエリアTOP5」といった特集が組まれている。

例えば、市中心部とITパークの間に位置し、幹線道路が整備され、商業地区も増え続ける「JPナガー／ジャヤナガー」エリアについては、ベンガルルールで最も成長しているエリアの一つであり、同地区の住宅用不動産価格は過去4年で50%上昇したと紹介。また、同様に人気の「コラマンガラ」エリアについては、高級アパート、一戸建て住宅、オフィスの3つのエリアに分かれ、昼間はカフェで仕事をする人、ショッピングを楽しむ人で、夜はバーやナイトライフを楽しむ若者であふれていると紹介。特に住宅や商業施設の不動産価値が格段に高まっている。

出所：The Property Times

専門家に聞いてみよう



三井住友DSアセットマネジメント株式会社
専務執行役員 駒形 敬二

※世界有数のIT企業インフォシス本社をバックに
(2019年10月撮影)

私は前職（大和証券）支店長時代にアメリカ発のIT革命黎明期を経験し、また90年代の中国に出張した際には、街中あちこちで工事が行われ砂埃が舞い、その中を大勢の人々が行き交う熱気を体験しました。あれからわずか20～30年で、GAFAと呼ばれるテックジャイアントは世界のプラットフォームになり、中国は世界を二分する大国に変貌しています。驚くべきことです。昨年、インドのベンガルルールを訪れる機会があり、当時の記憶がよみがえりました。ハイテク産業が集積し外資も続々進出、それにあわせてインフラやオフィスビルの建設が進み、若い人口も増え続けています。ただ、そうした近代的な街並みの隣には、まだ昔ながらのバラックが並んでいる。それが現在の姿であり、まだまだ成長の余地があるということです。まさに「百聞は一見に如かず」。アジア各所ではこのような市場のイノベーションが起きており、世界の投資がますます集まるでしょう。インドをはじめ、今後のアジア各国に引き続き注目していきます。

企画・発行：三井住友DSアセットマネジメント株式会社

東京都港区愛宕二丁目5番1号 愛宕グリーンヒルズMORIタワー 28階

<https://www.smd-am.co.jp>

データ：三井住友徳思資産管理（香港）有限公司 アジアリサーチセンター

※本資料のマクロデータ等はアジアリサーチセンターのデータから引用しています。

現地取材・編集：TNCアジアトレンドラボ <http://tnc-trend.jp/>

デザイン：株式会社TNC

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真には、本文とは関係がないイメージ写真が含まれています。

作成基準日：2020年1月31日